

# 港

「あのひとを案内したい港区」

日時:2017/11/18(土)  
講演:14:00~16:00



「想像力をかきたてる石垣」

品川駅まえを通る京浜1号線沿いの一角にわずかに石垣の一部が保存されている、港区郷土資料館によれば広重の絵にもある様にこの道路沿いまでがその頃は海岸だったようだ。そこから高縄の台地に一気に向かう坂道沿いには今も立派な石垣がそびえている。海拔25メートルを超える坂道の頂点には高輪消防署ができたのは当然のことだったろう。品川沖が見渡せたこのあたり、どの様な風物が行き交っていたのだろうか？近隣の子供達と想像を巡らせながら歩きたいものだ。



今井 均

「外国人はどう思うか」

丘状の複雑な地形、豊かな緑や江戸時代の給水路跡などのある港区の最南端地域。そこを東西に横断する環状4号線の戦後計画は、商業上の需要度が低く長らく放置。それが許認可条件から公園や広場、駐車場などで、空間の豊かさを増大させてきた。ところが近年の品川駅の都市化で急にこの道路計画が浮上り問題化。ここで、スクラップ&ビルドを気にしない日本人体質がどう出るか、外国人と下見し議論したい。「プラチナ通り」と繋がり、お茶や食事にも困らない。



大倉富美雄

東京都市計画街路補助7号線、日赤下から麻布の丘に上がり、東京ローンテニスクラブを右に見て仙台坂を下り二の橋へ。それから三田綱町の丘に上がると右手にオーストラリア大使館、綱町三井倶楽部と簡易保険局庁舎に挟まれた空間がこの道のサミットです。片側一車線、ゆったりした歩道と街路樹、少ない交通量、まだ高層建築物の建っていない新しい通りをどうつくったらよいか、地域の知恵と心意気を見せられる都市計画にしたいと思っています。



黒木 正郎

「都会のネコ道・・・」

Google ストリートビューを使えば、世界の主要都市の街角を自由に散策できる今日、港区には未だにストリートビューにアップされない沢山の小道が散在していることは余り知られない。それも、地元の人達が日常的に利用する地域に根ざす生活道路だったりするから驚く。歴史的には海辺の丘陵地に形成された高輪の街・・・その地形的な制約から生じる、ストリートビューにアップされない不思議な光景を「港区=都会的でオシャレ」と考える人達に眺めて貰いたい。行き止まり路地や、狭く急峻な坂・階段状通路など、建築家にとつ



ては減災的見地から眺めて見る必要も有ったりする。

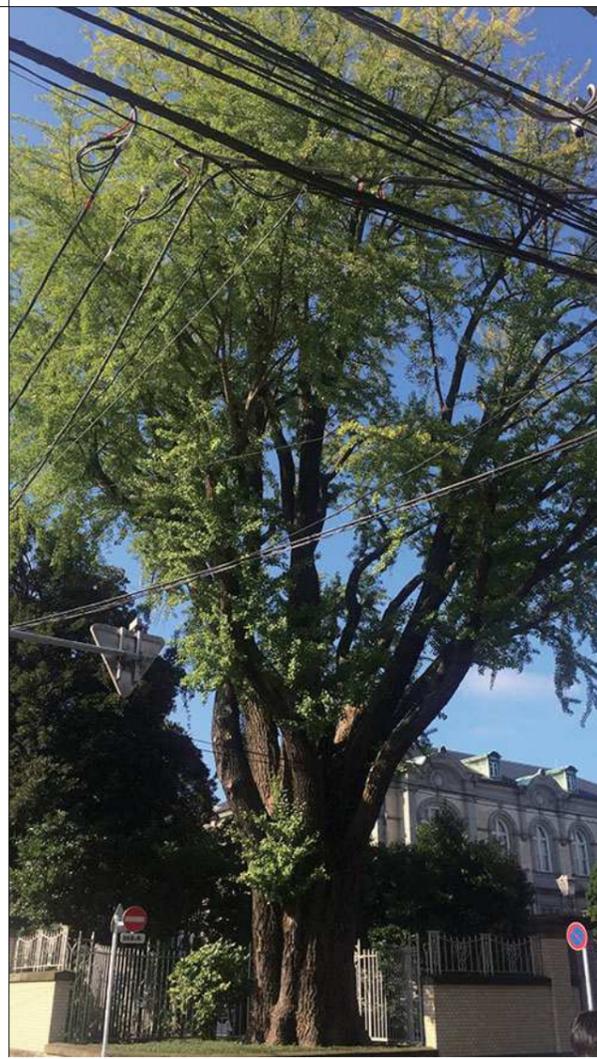
武田有左

「港区のエアポケット」

港区の麻布や三田のあたりをジョギングしていると、思いがけない大木や原生林のような庭に出会うことがある。大使館や迎賓館、そういう特権階級の空間が都市のエアポケットのように自然を守っている。そういう場所が多数点在するのが港区の魅力のように思う。また、芝公園、愛宕山は、そのなかでも神秘的な結界が存在するエリアだ。うっそうとした緑の公園と日本人に愛される東京タワー。港区のへそのような、不思議な時空間を体験できるスポットを紹介したいと思います。



田口 知子



「建築家がつくる癒しの空間」

赤坂見附から青山通りを西に歩いていくと、建築家が作り出したヒーリングスポットに出会う。港区は大都会であるが、見事な森が存在し、その森を建築家が借景としくつろぎの空間を作っている。丹下健三の草月会館2階のカフェや、松田軍平のMHS本社6階庭園からは神宮外苑の森を見渡す事が出来る。隈研吾の根津美術館、現代計画のヨックモックの中庭なども、女性に好まれる空間がある。都会の中で癒されてみてはいかがかな？



宮田多津夫

「子供たちに紹介したい小さくてもきらりと光る教会堂建築」

港区には多くの外国人の方がおられます。特にキリスト教圏の方も多い地域ということもあり、沢山の素敵な教会堂が点在しています。明治維新になってキリスト教の禁教令がとかれた最初のころからの教会がたくさんあります。明治の洋館建築から現代建築まで、まちの雰囲気とあっている、かわいくて素敵な心のこもった建物があるので、そぞろ歩きするととても楽しい1日となることでしょう。海外の人との交流のひとつももてるルートをご案内いたします。



村上晶子

「個性ある道・路地：一ツ木通りから赤坂通り」

赤坂見附から一ツ木通りを歩く、車がゆっくり走るよう道路は曲線を描く、斜めの街灯は建築家・石井和弘氏の設計、赤坂サカスを抜けて赤坂通りへ。砂場の蕎麦屋の横には、落書き消し街づくりワークショップで塗装した囲いがある。旧日大通りはネーミングイベントで勝海舟通りという名になった。ドミエメロードは当方の設計、横には民家を改修した人気のホテル(KAISU)、この路地は小町通りと呼ばれジャズフェスにはとても賑わう。



連健夫